

東日本女性登山交流集会 福島県に159名が集う



2013年10月13日-14日 第13回東日本女性登山交流会 福島・うつくしまを登んべし

10月13日(日)～14日(月・祝)の二日間、労山女性委員会が主催した「第13回東日本女性登山交流会」が、福島県・南会津町の『会津高原リゾートイン台鞍』で開かれました。ここは、会津田島駅から車で20分、標高880mの高原スキー場で、近くには駒止湿原もあります。参加者は東北、関東、新潟の12都県41会から159名でした。

集会は、東日本大震災の被災に加え、汚染水漏れがますます深刻になっている原発事故のなかで、福島島の苦渋を忘れず、再生に少しでも役立てばと開かれました。東北での開催は、去年の山形集会に続いて、2年連続です。

一日目は、各会で自主的に交流登山を行いました。が、主管の福島県連がサポートする南会津の名峰、齊藤山1278mと七ヶ岳1635mに人気が集まりました。天気はあいにくの雨模様でしたが、頂上では眺めが開け、紅葉が始まった南会津の山々や那須の茶臼岳など、眺望を満喫しました。

第13回 東日本女性登山交流会

「福島・うつくしまを登んべし」(南会津)

2013年10月13日(日)～
14日(祭日)

七ヶ岳 Photo by 和泉希(福島県高梁)

●福島の特産から呼びかけます
居住制限区域、畑地開墾区域、計画の遊園区域、遊園地解除準備区域、大量の放射性物質、海洋、大気、河川、土壌の汚染、放射線、宮城と絶望、消えない深い傷跡、福島の深い道のり、ここで生きる、復興支援、支え、絆、最後まで希望は捨てない、忘れな

二度とさせない決意、私たちは進む。来て、見て、伝えてください！皆志士の「本気の空」は、しっかりと福島にある。

10/13日 登山と交流会

●登山 ①各県連、会での自主登山実施をすすめます。
②自主登山の他に七ヶ岳、齊藤山を福島県連が担当。

●宿泊ホテルで受付開始 15:00～ 南会津リゾートイン台鞍
●夕食交流会 18:00～

10/14日 全体集会 8:30～12:30

●実行委員会 『山道ゴーゴー体操』 石川良恵氏(女子美術大学名誉教授) 8:30～9:30
●あいさつ 南会津町長、南会津町観光協会長、南会津会会長
●講演会＆質問対話 『福島の再生を語る』 清水修二氏(福島大学教授) 10:00～11:30
●報告 『原発事故後の福島の山のレポート』 和泉 功氏(福島県連) 11:30～12:00

インフォメーション

●会場 南会津リゾートイン台鞍 福島県南会津郡南会津町針生字屋山 857-150 管241-64-2011
(アクセス) 会津田島駅(会津線) / 東北自動車道・西郷橋通り ICから約280号経由で約80分
●参加費 11,000円 ●参加募集 120名 ●締め切り 定員になり次第締め切りとなります。
●申込み先 日本勤労者山岳連盟女性委員会 Fax: 03-3235-4324 E-Mail: jmtf@jmtf.jp

【主催】日本勤労者山岳連盟 【主管】福島県勤労者山岳連盟
【後援】南会津町 福島テレビ 福島民友新聞社

心身ほぐれて下山。一同が集まったのは会場となる『会津高原リゾートイン台鞍』です。夕食からの交流会は、いつもながら歌や踊りのお国自慢で盛り上がりました。



山筋ゴーゴー体操の指導

二日目、最初の1時間は女子美術大学名誉教授の石田良恵さんが指導する「山筋ゴーゴー体操」です。その後、福島大学の清水修二教授(地方財政論専攻)に「福島の再生を語る」と題して講演をお願いしました。清水教授は、福島県民は自分たちが使ったのではない電力のための原発事故で、日々、体内外の低線量被爆にさらされていること、チェルノブイリ事故の教訓にも学びながら、「復興のため何が必要か」「子どもたちをどう守るか」の道筋を作っていくことが大切であると語りました。全国連盟女性委員会はプレ学習会の中で、食物を通じた

内部被ばくの恐ろしさを痛感していただけに、大きな衝撃をもたらしました。

続いて、福島県連事務局長の和泉功さん(福島登高会)から「原発事故後の福島の山のレポート」があり、福島の山で線量測定を2011年10月から2013年9月までの2年間に143回実施したとの報告で、地道な活動に感動しました。集会成功へと取り組まれた福島県連の皆さんに深く感謝し、「福島を忘れない!そして、福島の山へ登ろう!」と意を新たにしました。



「福島の再生」を語る清水教授の講演